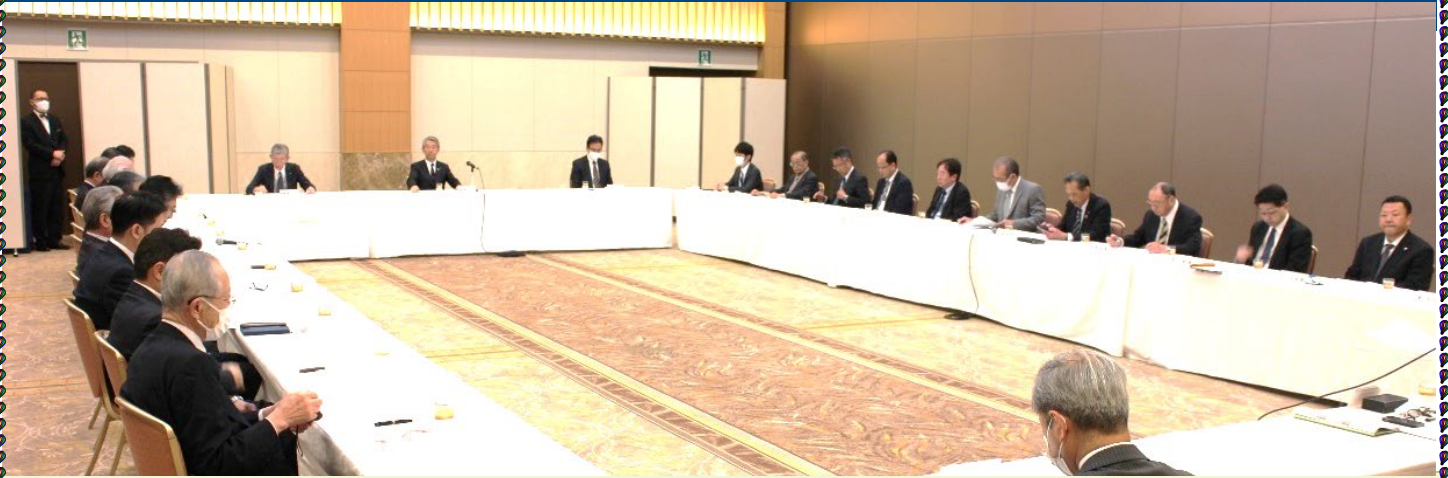


令和6年度 理事会(第37回)・幹事会(第17回)・3委員会合同会議

日時:令和6年4月26日(金) 会場:秋田キャッスルホテル「放光の間」



議案

- 第1号議案 令和5年度事業報告・収支決算の承認(監事による監査報告)
- 第2号議案 令和6年度事業計画(案)・収支予算(案)
- 第3号議案 令和5年度定時総会の開催
- 第4号議案 任期満了に伴う役員候補者の支部推薦依頼

第37回理事会、第17回幹事会及び3委員会の合同会議が4月26日(金)秋田キャッスルホテルで開催されました。今回の会議には定時総会に向け、令和5年度の事業・収支決算報告、令和6年度の事業計画(案)・収支予算(案)を含め合計4本の議案が提出され、全会一致で承認された。

会議の冒頭、湊屋会長が挨拶を行い、

「ようやく失われた30年、またデフレ経済の脱却局面にあるが、その背景には生活防衛のために安さを求める消費者、安さを供給するため、ひたすらコストカットに走る企業、こういった意識が変化してきたことがあるように思う。実質賃金を上昇させ、賃上げを起点とした経済の好循環のサイクルを回し、日本経済を復活させていくというコンセンサスが形成されてきたように感じる。

中小・地方企業にとっては誠に厳しい経済環境ではあるが、秋田経済研究所の景気動向調査によれば今年度賃上げを予定している県内企業は7割強に上っており、県内の賃上げは4月10日現在、13,166円、4.62%の伸びを示している。一方で、物価高の中では消費者ニーズを捉えるということもあるが、最近また割安な商品の投入が大手スーパー、コンビニで目立ってきている。賃上げの原資を確保するには生産性の向上や適正な価格転嫁が必要だが、これでは賃金と物価の好循環によるデフレからの脱却も怪しくなってしまう。ようやくデフレ脱却局面にたどり着いた現在、複雑な気持ちになってしまう。」と述べた。

議案審議は、はじめに令和5年度の事業・収支決算報告が審議され、重点項目の「会員増強」においては、前年比7先増加の273先になったこと、「安定した財政基盤の維持」については効率経営に努めた結果、予算計上の赤字額を圧縮できたことが報告された。事業は計画通り実施され、諸行事においては多くの会員の参加を得たこと、これに伴い、収支決算において事業収入、事業費ともに増加したことが報告され承認された。

令和6年度の事業計画(案)は、ほぼ例年通りの計画であるが、事業として会員名簿の作成を計画していること、諸行事は多くの会員の参加を想定していることが説明され、収支予算(案)に反映させたことを報告し承認された。議案審議は、定時総会を6月6日、秋田キャッスルホテルにて開催することを承認した。

最後に、事務局から任期満了に伴う役員候補者を支部あて推薦依頼する旨の報告があった。

(文責:事務局)

